

## 第4回 富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会

日 時：令和7年12月24日（水）13時30分から  
場 所：富山県民会館6階 611号室

### <次 第>

#### 1 開 会

#### 2 会長挨拶 富山市長 藤井 裕久

#### 3 議 題

- (1) 本線分科会での検討状況について . . . 資料1
- (2) 立山線分科会での検討状況について . . . 資料2
- (3) 不二越上滝線分科会での検討状況について . . . 資料3
- (4) 令和8年度の対応について

#### 4 閉 会

#### 【配布資料】

- ・ 出席者名簿
- ・ 配席図
- ・ 資料1 本線分科会での検討状況
- ・ 資料2 立山線分科会での検討状況
- ・ 資料3 不二越上滝線分科会での検討状況

## 本線分科会での検討状況

## 1. 路線の現状分析

- ・富山地方鉄道本線は路線距離 53.3 kmが富山市、舟橋村、立山町、上市町、滑川市、魚津市、黒部市の7市町村に跨り運行されている。また、滑川駅～新魚津駅間では、あいの風とやま鉄道が並行運行している。
- ・上市駅以東の区間ごとの駅平均利用者は、平日は「上市駅～滑川駅間」が最も多く、休日は「新魚津駅～宇奈月温泉駅間」が最も多い。
- ・本線は、沿線住民の生活（通勤・通学・買物等）を支える暮らしの足として、また、県内外からの観光客の移動手段として重要な役割を果たしている。特に、市町域を越えて通学する高校生にとっては、欠くことのできない日常の移動手段であり、上市以東の沿線に存在する7つの高等学校に通う生徒の約3割が本線を利用して通学している。一方で、県東部の重要な鉄道ネットワークを構成しており、県東部の観光周遊ルートを形成している。今後、黒部宇奈月キャニオンルートの開業を契機として、更に県全体や北陸全体に観光をメインとする経済効果が波及していくことが期待されている。

## 2. 分科会の開催状況

## ●第1回本線分科会（R7.7.1開催）

## [議題]

- ・富山地方鉄道本線あり方調査業務について
- ・令和8年度の対応について（鉄道事業運営に係るモデル試算等）

## [議事要旨]

- ・本線のあり方調査の中間報告を受けて、令和8年度の行政負担について分科会としての方向性を取りまとめることとした。

## ●第2回本線分科会（R7.11.29開催）

## [議題]

- ・本線あり方調査の中間報告について（富山地方鉄道本線あり方調査業務等）

## [議事要旨]

- ・富山地方鉄道本線あり方調査の中間報告において、本線の運行状況（輸送状況等）、必要性（高校生の利用割合、観光客の利用者数推計等）、上市駅～宇奈月温泉駅の運行形態（6パターン）の比較、利用者を増やす取組案などを示した。
- ・運行形態は、鉄道ネットワーク維持と利用者の利便性の観点から、①現行路線維持、②あいの風とやま鉄道との並行区間の営業運行を廃止（車両回送に使用）、③同区間を廃止撤去（車両回送も行わない）の3パターンに絞り込んで今後の検討を進める。
- ・本線のあり方について、丁寧に論議する時間を確保するため、令和8年度について、本線を含めた全線を一体で支援する方向で、12月のあり方検討会で、対応を協議することを確認。

## 3. 今後の方針

- ・最終報告に向け、絞り込んだ運行形態の概算経費、利用者を増やす取組に係る概算費用を明らかにし、運行形態ごとに課題等を取りまとめる。

## 立山線分科会での検討状況

## 1. 路線の現状分析

- ・立山線の利用については、上り下り共に平日は通勤通学の利用者が多く、休日は観光客（電鉄富山駅—立山駅間利用）が多い。
- ・立山線を利用する観光客へのアンケート調査では、駅の近接性が大きな理由となっており、立山線が無かった場合の来訪意向として「訪問していなかった」の回答が多く、鉄道立山線が観光客来訪の大きな動機となっている。
- ・インバウンド需要に伴う観光客の増加傾向や立山線利用の観光客のアンケート結果などから、地鉄立山線利用での観光需要はさらなる増加が見込める。

## 2. 分科会の開催状況

## ●第1回立山線・不二越上滝線分科会（R7.6.5開催）

## [議題]

- ・不二越上滝線の検討状況について
- ・立山線の検討状況について
- ・鉄道事業運営に係るモデル試算について

## [議事要旨]

- ・立山線の存続に向けた鉄道事業再構築事業の実現可能性調査を実施する。
- ・路線のあり方を議論するうえで重要な運営形態や行政負担の軽減、観光需要への対応といった課題などについて検討。

## ●第2回立山線分科会（R7.9.1開催）

## [議題]

- ・富山地方鉄道鉄道線「経営の範囲」に伴う「運営区間」の考え方について
- ・立山線に関する知事への要望について
- ・立山線の検討状況について

## [議事要旨]

- ・立山黒部アルペンルートへのアクセスとして重要な立山線の岩嶺寺駅から立山駅間を観光路線として位置づけ、鉄道線の存続を目指すことを基本的な考えとして取組みを進めることに合意した。

## ●第3回立山線分科会（R7.11.22開催）

## [議題]

- ・富山地方鉄道立山線の必要性について
- ・地鉄立山線利用者の経済波及効果（試算）について
- ・地鉄立山線の利用促進に向けた取組みについて
- ・地鉄立山線における斜面防災対策の概要について

## [議事要旨]

- ・立山線並びに沿線地域の現状及び将来見通し、立山線利用の観光客へのアンケート調査を踏まえた調査結果を中間報告。
- ・令和9年度から立山線の再構築事業を目指すという方向性で合意した。
- ・令和8年度の運行継続のための支援については、12月中にあり方検討会を開催し、全体で議論。

## 3. 今後の方針

- ・立山線の維持に必要な経費、行政側の財政負担の明確化、再構築に向けた具体策やそれに伴う整備費の検討について関係者で取り組んでいく。

## 不二越上滝線分科会での検討状況

## 1. 路線の現状分析

- ・平日、休日を問わず中心部（電鉄富山駅）へのアクセス手段としての利用や、沿線の学校への通学手段として多く利用されている。
- ・市内の他の鉄道線（富山港線、高山本線等）と比べて運行本数が少ないことや施設更新が進まないなど、鉄道の持続可能性が低下している。
- ・一方で、富山市の東部・南部地域を縦貫し、本市の都市マスタープランに位置付けている「公共交通軸」であり、沿線人口や土地利用等において、大きなポテンシャルを有している。

## 2. 分科会の開催状況

## ●第1回立山線・不二越上滝線分科会（R7.6.5開催）

## [議題]

- ・不二越上滝線の検討状況について
- ・鉄道事業運営に係るモデル試算について

## [議事要旨]

- ・路線のあり方を議論するとともに、継続して運行するための維持管理費の算出などについて検討を深めた。

## ●第2回不二越上滝線分科会（R7.9.1開催）

## [議題]

- ・現在の検討状況について
- ・ローカル鉄道の再構築について
- ・今後の検討スケジュールについて

## [議事要旨]

- ・地鉄および北陸信越運輸局にも構成メンバーに加わっていただき、鉄道事業再構築事業の実施に向けた検討を進めることを合意した。

## ●第3回不二越上滝線分科会（R7.12.1開催）

## [議題]

- ・不二越上滝線のあり方に関する調査結果について
- ・不二越上滝線の再構築について
- ・今後の検討スケジュールについて

## [議事要旨]

- ・沿線まちづくりと一体となった活性化を図るため、再構築事業の素案を基に、鉄道事業再構築実施計画の検討を進めることを合意
- ・事業構造については、みなし上下分離方式をベースに協定等で補完する「富山型官民連携方式」の議論を深める。

## 3. 今後の方針

- ・来年度は、令和9年度からの「鉄道事業再構築事業」の実施に向け、費用の精査や行政負担の明確化はもとより、市民への丁寧な説明と理解醸成を図りつつ、再構築実施計画の具体化を進める。

## 富山地方鉄道鉄道線に係る令和8年度の対応について

### 1 基本的な考え方

県地域交通戦略では、地域交通サービスは地域の活力・魅力に直結する「公共サービス」と位置付けたことから、運行主体である富山地方鉄道の一定の負担を前提に、県、沿線自治体（7市町村）で鉄道ネットワークを維持するため、収支差の一部を公的負担するスキームとする。

### 2 スキーム（案）

県	7市町村	富山地鉄
1/3	1/3	1/3